

平成 26 年 8 月 11 日 作成 山本尚人

平成 26 年 8 月 12 日 修正 山本尚人

第 11 回日本加速器学会年会インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会世話人会) 議事録 (案)

日時 : 2013 年 8 月 11 日 (月) 12:00 ~ 13:00

会場 : 青森市 リンクステーションホール青森 小会議室(1)

出席者 (順不同・敬称略) :

上坂、佐々木、浜、鎌田、羽島、阪部、藤田、川瀬、想田、宮本(篤)、宮本(修)、柏木、
清宮、全、坂上、余語、中新、山本

司会 : 余語

書記 : 山本、中新

配布資料 :

2014F-1 : 前回議事録

2014F-2 : 「西川シンポジウム」提案書

2014F-3 : 西川シンポジウムに関するコメント

議事内容 :

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - A. 日本物理学会ビーム物理領域関連
 - B. ビーム物理研究会関連
 - C. 日本加速器学会関連
3. その他

1 前回議事録確認

2014年3月28日に開催された第69回日本物理学会年次大会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会総会)の議事録(配布資料:2014F-1)について内容確認が行われた。時間的な制約から内容の読み上げは省略されたが、意見・コメントはなく、承認された。

2 報告・審議事項

A. 日本物理学会ビーム物理領域関連

[大会関連]

A-1. 一般講演件数の推移

次回2015年大会に向けて、過去8年間における春の物理学会での一般講演数の推移、前2014年大会における他領域との講演数の比較、2014年大会における他領域との合同セッション発表件数の内訳が前回総会資料より引用され報告された。一般講演件数には合同セッションを含む講演件数がカウントされる。2013年大会では162件(合同セッションを除くと74件)であったが、2014年大会では72件(合同セッションを除くと55件)と減少し、各領域中最下位となった。一般講演締切の2週間前にリマインドのメールを流したが、あまり効果が無かった。

発表件数に関しては他領域と比べ(合同セッションを除く)ベースの発表数を増やすことが必要である。各大学の先生方に事前にお問い合わせし学生の参加をオーガナイズしてもらう方式をとってはどうかという提案がなされた。また、近い分野への働きかけを行いコミュニティ内に潜在的な人数を増やすことも重要であるとの意見もだされた。

A-2. 招待・企画・シンポジウム講演について

次回2015年大会に向けて、2014年大会において実施した招待・企画講演2件(奨励賞講演を含む)、主催合同シンポジウム1件、共催合同シンポジウム2件を実施したことを報告した。

次回2015年大会のシンポジウムとして以下4件が提案された。

- 提案者:大柳氏/産総研「次期光源(東北放射光, Ultimate 3GeV ring, ERL, Spring-8II)関連」
- 提案者:上坂氏/東大「医学物理・応用関連」
- 提案者:上坂氏/東大「検出器物理」
- 提案者:野崎氏/KEK「西川シンポジウム(詳細は別項参照)」

議論・コメント

「次期光源関連」に関して

- 提案された方(大柳氏:産総研)に動いて頂きたいが、大柳氏はビーム物理研究会会員ではなく検討項目にあがっていることを知らないのではないか。このため、一度仕切り直し、改めて検討を行っ

てはどうか？

- 行いう意義を明確にする必要がある？
- 西川シンポジウムの一つにしてはどうか？講演頂ける方の幅が広がることを期待できる。

「医学物理・応用関連」に関して

- 上坂氏から医学物理の先生と相談して頂く。

「検出器物理」に関して

- 高感度・高速センサーの研究者の方に講演を依頼してはどうか？東北大の吉川先生、浅井先生などが候補である。
- どこかの領域とのジョイントが欲しいが、検出器の研究者の多くは応用物理学会に所属している傾向がある。
- 上坂氏中心で検討を進めて頂く。

A-3. 2015 年春期大会での合同企画に関して

次回 2015 年大会のシンポジウムとして昨年度から引き続き 6 件の合同セッションが、佐々木氏より新たに 1 件が提案された。

合同セッション

- SuperKEKB・BelleII・ILC
- J-PARC と原子核素粒子実験
- 高強度レーザー・FEL・放射光
- レーザー・プラズマ加速
- イオントラップ・非中性プラズマ・レーザー冷却
- ミューオン・中性子・陽電子
- [佐々木氏による新規提案] 光の角運動量関連

これらのうち「レーザー・プラズマ加速」はほぼ確定しているとみて良い。

「光の角運動量」に関しては領域 1、原子分子との合同セッションが期待できる。放射光ユーザーを巻き込めると良い。佐々木氏からの働きかけをお願いすることになった。

A-4. 若手奨励賞について

2014 年度は審査中。応募件数は 2 件。毎年応募件数が少ないため積極的に応募するよう呼びかけられた。なお、37 歳以下の若手研究者が対象となるが、厳密なものではなく判断は各領域の判断に任せるとのこと。ビーム物理領域としては現在 2 名まで授与可能であり、博士論文も審査の対象となる。加速器・西川賞と同じ内容では問題があるが、進捗があるならよい。受賞人数はビーム物理領域の公演数（過去数年間の平均）によって決まっ

ており、公演数が減ると受賞人数が減る可能性がある。

A-5. 今年度大会（秋季・春季）に関して

主なスケジュールが確認された。次回の秋季大会は、素核宇ビが2014年9月18日から21日まで佐賀大学本庄キャンパスで開催され、物性が9月7日から10日まで中部大学春日井キャンパスで開催される。次期秋季大会での合同セッションはなし。年次大会は2015年3月21日から24日まで早稲田大学早稲田キャンパスで開催される。重要な締め切り日は次の通り。

年次大会

- 合同セッション申込〆切：2013年9月15日
- 招待・企画・チュートリアル・シンポジウム講演の〆切：2013年11月5日
- 一般講演の申込〆切：2013年11月23日

◇ いずれも Web 受付の場合

[領域運営関連]

A-6. 執行部と事務局の確認

現領域執行部は今年度が任期の最終年度であるため、次期領域執行部の確認が行われた。次期会長は現副会長の佐々木氏（広大）が内定し、次期副会長の人選は次期会長に一任することになった。

A-7. 次期領域運営委員（2014/4～2015/3）について

現領域運営委員の山本氏（名古屋大）の後任として、早稲田大学理工学術院 総合研究所の坂上和之氏が紹介され、承認された。任期は2015年4月から2016年3月までの1年間。現在の体制は次のとおり。

期間	領域運営委員
2013/4～2014/3	阿達 正浩（アドバイザー）
2013/10～2014/9	余語 覚文（現）
2014/4～2015/3	山本 尚人（現）
2014/10～2015/9	中新 信彦（引き継ぎ中）
2015/4～2016/3	坂上和之（本会で決定）

B. ビーム物理研究会関連

[研究会合関連]

B-1. ビーム物理研究会 2014 について

全（京大）より、今年度ビーム物理研究会及び若手の会の企画状況等について報告がなされた。

- 岩下（京都大）、紀井（京都大）、全（京都大）で実行委員を組織し、ビーム物理研究会・若手の会を企画している。
- 日程：2014年11月25日（火）～27日（金）正午。ただし、11/26の午後より若手の会
- 場所：京都府宮津市 みやづ歴史の館（収容人数286名）
- 招待講演の講師は現在検討中。
- 懇親会会場：11/25(火)、場所は未定

コメント

- ステージと客席の間隔が重要なので、議論が活発に行われるよう工夫をお願いしたい。
- 奈良女子大との協賛に関して土田先生への働き掛けを行う。
- 化研・エネ研からの開催援助の確認をお願いします。
- 宿は各自で予約して頂くことを考えている。

[研究会運営関連]

B-2. メールサーバ、メーリングリストについて

名簿係の藤田氏（JASRI/SPring-8 加速器）より、メールサーバ・メーリングリストについて説明があった。

- 現在、3つメールアドレスを設けているが、さらに新入会員専用のアドレスを1つ追加することを予定している。SPring-8 所内事情で予定より少し遅れている。
- メールサーバの移動を計画しているメールアドレスについては変更無しの予定。

C. 日本加速器学会関連

特になし。

3 その他

3-1. 西川シンポジウムに関して

日本物理学会「素核宇ビームプログラム小委員会」「領域委員会」にて西川シンポジウム提案資料を提出・説明し議論がなされ、幾つかコメントを受けた（配付資料：2014F-3 参照）。

これらコメントを受け以下の内容で「西川シンポジウム」を進めることとした。

趣旨：（変更無し）

－ 加速器研究と利用研究の連携促進

- 若手研究者の交流の場を提供

詳細：

- 西川賞とは必ずしもリンクさせない。
- 毎回、副題をつけて申請することにし、関連のありそうなセッションに「西川記念シンポジウム」の冠を被せる

今後、主にメール審議において3月の年会開催を目指して要領作成を進めていく。

3-2. 次回の総会・世話人会について

次回の総会は2015年3月21日(土)から24日(火)に開催され日本物理学会第70回年次大会(早稲田大学)の会期中に行う。世話人会は2015年8月頃に開催される第12回日本加速器学会年会の会期中に行うことが確認された。

以上